

Asia Indicators

発表日: 2020年1月10日(金)

台湾、輸入の動きは先行きの輸出の底堅さを示唆 (Asia Weekly(1/6~1/10))

～商品市況の底入れはマレーシアの鉱業生産を押し上げるも、全般的な生産の基調は弱含む展開が続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/7 (火)	(台湾) 12月輸出 (前年比)	+4.0%	+3.1%	+3.3%
	12月輸入 (前年比)	+13.9%	+5.0%	+5.8%
	12月消費者物価 (前年比)	+1.13%	+1.00%	+0.59%
1/9 (木)	(中国) 12月消費者物価 (前年比)	+4.5%	+4.7%	+4.5%
	12月生産者物価 (前年比)	▲0.5%	▲0.4%	▲1.4%
1/10 (金)	(フィリピン) 11月輸出 (前年比)	▲0.7%	+2.0%	+0.3%
	11月輸入 (前年比)	▲8.0%	▲6.2%	▲10.8%
	(マレーシア) 11月鉱業生産 (前年比)	+2.0%	+1.1%	+0.3%
	(シンガポール) 11月小売売上高 (前年比)	▲4.0%	▲4.1%	▲4.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

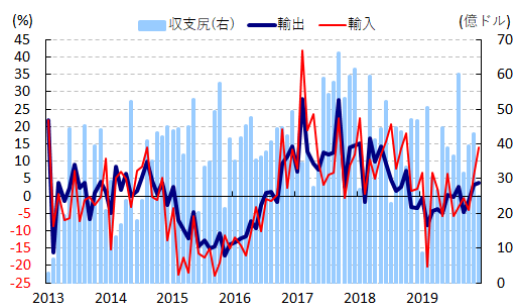
[台湾]～インフレ加速も生活必需品中心、輸出に一服感も輸入の堅調さは先行きの輸出の底堅さを示唆～

7日に発表された12月の輸出額は前年同月比+4.0%となり、前月(同+3.3%)から伸びが加速した。ただし、前月比は▲0.5%と前月(同+4.8%)に大きく拡大した反動で2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど一進一退の展開をみせている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の輸出は堅調な推移をみせる一方、金属製品関連や化学製品関連など素材及び部材関連の輸出が弱含む展開をみせていることが重石になっている。国・地域別でも、米国やEUなど先進国向けのほか、ASEANなどアジア新興国向けなどで堅調な推移が続く一方、最大の輸出相手である中国本土向けや日本向けなどの鈍化が全体の下押し圧力となった。一方の輸入額は前年同月比+13.9%となり、前月(同+5.8%)から伸びが加速した。前月比も+3.1%と前月(同+4.0%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出と対照的な動きをみせている。中国本土やASEANなどアジア新興国のみならず、日本やEUなど先進国からの輸入も堅調に推移するなど、輸出財の生産に必要な素材及び部材関連の調達動きが後押ししているとみられる。結果、貿易収支は+25.02億ドルと前月(+42.78億ドル)から黒字幅が縮小した。

また、同日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+1.13%となり、前月(同+0.59%)から加速して14ヶ月ぶりに1%を上回る伸びとなった。前月比は+0.04%と前月(同▲0.41%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油市況の底入れの動きなどを反映してエネルギー価格の上昇圧力が高まっているほか、生鮮品を中心に食料品価格も上昇に転じるなど生活必需品の物価上昇の動きが物価全体

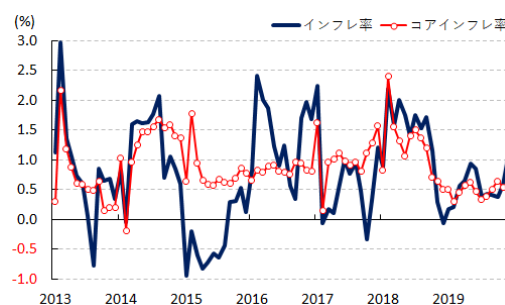
の押し上げに繋がっている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.57%と前月(同+0.55%)からわずかに加速しているのみであり、前月比も+0.00%と前月(同▲0.25%)の下落基調から転じているもの、物価上昇圧力が高まっている訳ではない。エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストの上昇圧力が強まっているにも拘らず消費財価格は下落傾向が続いているほか、景気の先行き不透明感や雇用の頭打ちを受けてサービス物価も落ち着いた推移が続くなど、インフレ圧力が高まる状況とはなっていない。

図1 TW 貿易動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW インフレ率の推移

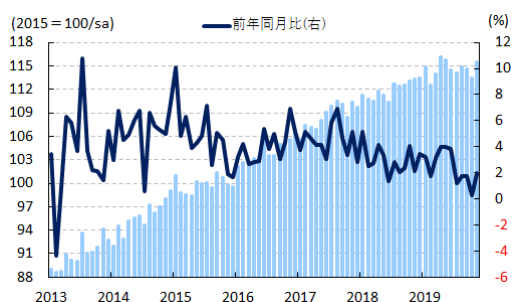


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～商品市況底入れを受け鉱業部門を中心に底打ちも、全体的な生産の動向は弱含む展開～

10日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+2.0%となり、前月(同+0.3%)から伸びが加速した。前月比も+1.8%と前月(同▲1.0%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。米中摩擦の激化や世界経済の減速懸念などを背景に域内貿易が萎縮していることを受けて調整が続いた製造業の生産に底打ち感がみられるほか、国際商品市況の底入れの動きを受けて原油及び天然ガス関連を中心に鉱業部門の生産が拡大傾向を強めたことも全体の押し上げに繋がっている。なお、全体的な経済活動の動向に影響される発電量は前月比で2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いており、依然として生産を取り巻く環境は厳しいと捉えられる。

図3 MY 鉱工業生産の推移



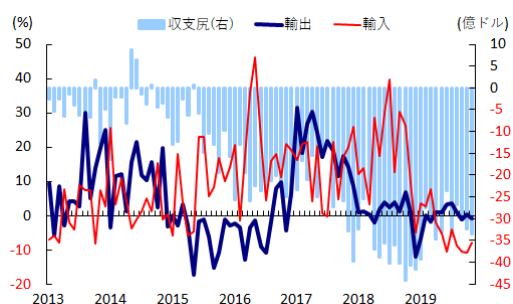
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～輸出は一進一退の展開も弱含むなか、輸出の弱さが輸入の足かせとなる状況が続く～

10日に発表された11月の輸出額は前年同月比▲0.7%となり、前月(同+0.3%)から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じ

ており、中期な基調も減少傾向に転じるなど一進一退の展開をみせつつ頭打ちの様相を強めている。財別では、国際商品市況の底入れの動きなどを反映して鉱物資源関連に堅調な動きはみられるものの、主力の輸出財である電子部品関連のほか、農産品関連の輸出など幅広い分野で下押し圧力が掛かっており、米中摩擦の激化に伴う域内貿易の萎縮の動きが重石になっている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国やASEAN、韓国及び台湾などアジア新興国向けのみならず、日本や米国、EUなど先進国向けにも下押し圧力が掛かるなど全般的に鈍化している。一方の輸入額は前年同月比▲8.0%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲10.8%）からマイナス幅は縮小した。ただし、前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。種類別では、消費財関連に底堅さがみられるものの、輸出の伸び悩みなどを反映して素材及び部材など中間財や資本財関連の輸出に下押し圧力が掛かる展開が続いている。結果、貿易収支は▲33.42億ドルと前月（▲32.40億ドル）から赤字幅が拡大している。

図4 PH 貿易動向の推移

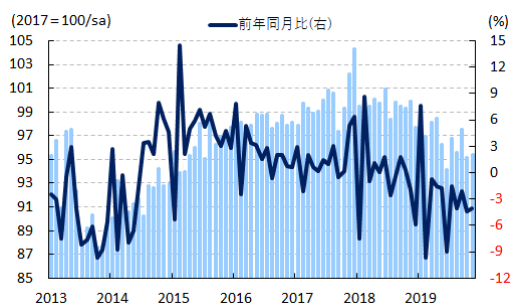


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～生活必需品や日用品向けの需要に底打ち感も、高額品に対する需要は依然弱含む～

10日に発表された11月の小売売上高は前年同月比▲4.0%と10ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲4.3%）からわずかにマイナス幅は縮小した。前月比は+0.2%と前月（同▲2.4%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの状況は変わっていない。なお、同国では自動車販売の月ごとの変動が大きく、小売売上全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲5.0%と前月（同▲7.1%）から2ヶ月連続で減少するなど下押し圧力となっている。自動車を除いたベースでは前月比+1.0%と前月（同▲1.6%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向となるなど底打ちの兆候が現れつつある。エネルギーをはじめとする生活必需品に対する需要が底打ちしているほか、日用品関連の需要にも底打ちの兆候が出ている一方、宝飾品など高額品に対する需要は依然として弱含む展開が続いており、景気の先行き不透明感や雇用環境の頭打ちなどを反映して家計部門の財布の紐は堅くなっている様子がうかがえる。

図5 SG 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。